

# 証券市場新聞

1 第140号

日経平均株価

2万2525円18銭

▲12円65銭(前日比)

TOPIX

1742.58

▼9.51(前日比)

2018

8/6

月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心齋橋ビル6F

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



## 電子部品 1Q決算を再点検

### 東エレクト、電産想定以下も好調不変



電子部品セクターの決算はどう評価する？

4) 本電産(659)も19年3月25日発表の日、再評価されることになりそうだ。同社株が先行する向きも多く、同社株が先行する再評価されることになりそうだ。

の受注機ロポットたことや内容だつを下回るセンサ市場コン

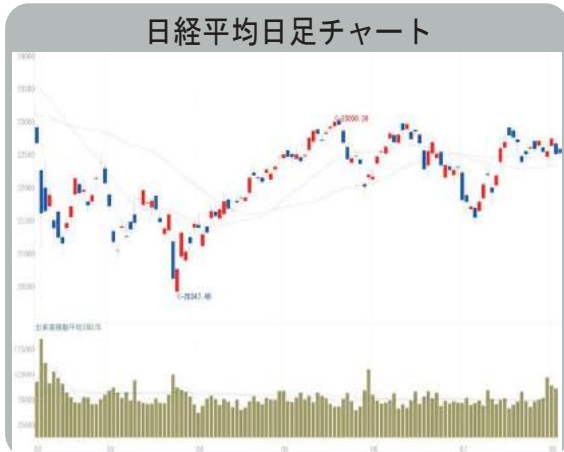
電子部品セクターでは7月26日発表の東京エレクトロン(8035)が翌日の27日に高寄り後にマナス圏に沈んでおり、株価面では期待外れの動きとなった。第1四半期連結売上高は2955億69

円を下回ったことが要因。ただ、悲観視されていた2018年のメモリ設備投資の見通しを上方修正しており、ポジティブな決算と見る向きも多く、同社株が先行する再評価されることになりそうだ。

修正したものの、株価は冴えない動きとなり評価されなかつた。市場コンセンサスを下回る内容をロポットたことや内容だつを下回るセンサ市場コン

## 信越化更なる上値に期待

3月期決算企業の第1四半期(4~6月)決算発表がスタートし、電子部品などの主力企業の内容がまずは明らかになった。個別では期待通りの大幅増益となり、株価が上昇する銘柄がある反面、好決算でも市場コンセンサスに届かず、発表後に下落する銘柄も散見されるが、総じてポジティブな内容の銘柄が多い印象を受ける。一時的な株価の乱高下に一喜一憂せず、第2四半期以降も好調な業績推移が期待できる銘柄を選別して、株価の動きが沈静化した局面で割安な銘柄を狙っていききたい。



向などが懸念されているが、家電メーカーではベトナムの生産能力を増強するなど海外拠点は活況で、1ドル100円の予想レートからも先行き再上方修正期待が高まりそうだ。加えて25日発表の信越化学工業(4063)は第1四半期で売上高3836億3300万円(前年同期比14.1%増)、営業利益954億5000万円(28.7%増)と市場コンセンサス超過する内容。株価も順調な上値追いが続いている。

# アルプス電気は高値

## 今週の動意銘柄

### 車載向け好調で今期上方修正

週明け30日、アルプス電気(6770)が反発、年初来高値を更新した。同社は27日の取引終了後、19年3月期の連結業績予想を修正表、売上高を8745億円から8790億円(前期比2.4%増)へ、営業利益を600億円から660億円(同8.2%減)へ、純利益を375億円から430億円(同

9.3%減)へ上方修正、これを好感した。電子部品事業で車載市場向け製品やスマートフォン市場向け製品などが想定より堅調に推移している。

#### 樺本チエエ修正で高値

30日、樺本チエエ(6371)が急伸、約半年ぶりに年初来高値を更新した。LLCの全持分を取

得してを完全子会社化する影響を織り込んだ。

### 三菱総研は急減速

30日、三菱総合研究所(3636)が一時ストップ安。18年9月期第3四半期累計の連結決算は、営業利益53億2100万円(前年同期比28.0%増)と大幅増益だった

### 正直いいさんの株で大判小判

3日の東京市場は膠着状態の強い動きとなりました。米ハイテク株高と円の弱含みを受け、輸出株に買いが先行しましたが、朝高のあとは上げ幅を縮めています。米7月雇用統計の発表を控えています。米7月雇用統計の発表を控えています。米7月雇用統計の発表を控えています。米7月雇用統計の発表を控えています。

#### 日米通商協議を見極める

週末のSQドで売買が米通商協議にはポジシ

アルプス電の日足チャート



### イーグランド41%営業減益

31日、イーグランド(3294)が急落、年初来安値を更新した。19年3月期の第1四半期単体決算を発表、売上高は45億200万円(前年同期比2.7%減)、営業利益は1億9800万円(同40.9%減)、純利益

は1億3000万円(同47.4%減)と大幅減益となったことが嫌気された。関西エリアでの販売件数が伸び悩み、長期保有物件を中心に販売価格の見直しを実施した影響により、売上総利益率も低下している。

#### Eギアラ分割2ヶタ増益

31日、イーギヤラ(8771)が急伸。8月15日を基準日として1対2の株式分割を実施すると発表されたことが材料視

#### 冶金工は上方修正

31日、日本冶金工業(5480)が大

#### 花咲翁

9%増)、営業利益5億6400万円(同12.5%増)、純利益3億4100万円(同10.2%増)と2ヶタ増益を達成した。





ぐるなびの  
日足チャート

# ぐるなびストップ高

## 楽天との業務資本提携を好感

なびポイントの、楽  
天会員と楽天の、楽  
天ポイントへの段階  
的統合や楽天のユー  
ザーに対するぐるな  
びのネット予約の利  
用の促進に向けた施  
策の実行など飲食店

31日、ぐるなび(2440)がストップ高。楽天(4755)との業務資本提携を発表したことが材料視さる。ぐるなびは、

純利益を4800億円から5000億円(同1.9%増)へ、上方修正、営業利益は6700億円(同8.8%減)で据え置いた。為替レートを1ドル105円前後から110円前後へ変更、スマートフォン事業の競争環境を含む様々なリスクを考慮して営業利益は据え

置いた。ルネサスエレクトロニクス(6723)が急反落、年初来安値を更新した。18年12月期第2四半期累計の連結決算は、売上高3893億9800万円(前年同期比4.0%増)経常利益415億1200万円(同36.3%増)と計画を上回り大幅増益で着地したが、第3四半期累計は売上高5650億円(同0.9%減)、経常利益440億円(同19.9%減)と減収大幅減益を予想したことが嫌気された。

1日、ソニー(6758)が大幅反発、年初来高値を更新した。同社は7月31日の取引終了後、19年3月期の連結業績予想の修正を発表、売上高及び営業収入を8兆3000億円から8兆6000億円(前期比0.7%増)へ、

予約サービスの提携をより一層強化する。同時に19年3月期第2四半期累計の連結業績予想を修正、売上高を157億円から160億円(前年同期比8.9%減)前倒しで発生した。

# ソニーは大幅高で新値

へ、営業利益を4億円から7億円(同75.2%減)へ上方修正した。ネット予約手数料が計画を上回り、プロモーション事業の売り上げが

前倒しで発生した。

## 気体溶解装置



## 気体を液体に効率よく溶かし込む!



### 特長

- ・酸素を効率よく溶かし込むことにより、陸上養殖における酸素使用量の削減に貢献
- ・マイクロバブル装置特許技術を応用した、高い気体溶解性能
- ・小水量、低圧力での溶解が可能
- ・簡単な溶解システム
- ・高い耐食性
- ・多種類の気体溶解が可能(酸素、二酸化炭素、窒素、水素等)

### 用途

- ・高濃度気体溶解水の生成



## 三相電機株式会社

本社 〒671-2288 姫路市青山北一丁目1番1号  
TEL (079) 266-1200 (大代表) FAX (079) 266-1206  
URL: <http://www.sanso-elec.co.jp>

企業観察

カプコン (9697)

1Qは営業利益6.5倍

算を発表、連結売上高は172億400万円（前年同期比46.5%増）、営業利益は51億600万円（同6.5倍）、純利益は39億300万円（同7.5倍）と大幅な増収増益だった。大阪取引所での決算発表の席上、野村 謙吉取締役専務執行役員 最高財務責任者（CFO）の写真是「デジタルコンテンツの販売が前年同期に比べて



カプコン（9697）は7月30日の取引終了後に19年3月期の第1四半期（4～6月）決

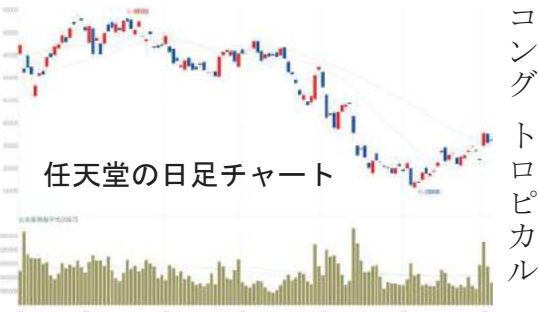
「モンスト」などリピート販売牽引

大きく伸長、特にリピートタイトルが貢献した」とし、販売本数は前年同期の250万本から430万本と急増している。前期に快進撃を続けた「モンスタースターハンターワールド」などのリピート販売が好調だが、PC版の販売も控えており、更なる伸びが期待できそう。通期は売上高960億円（前期比1.6%増）、営業利益170億円（同6.0%増）、純利益120億円（同9.7%増）と従来予想を変えていないが、「バイオハザードRE:2」と「デビルメイクライ5」の年明け発も控えており、上ブレ期待が高まる。

任天堂は急反発

1Q 88%営業増益を好感

1日、任天堂（7974）が急反発。9年3月期の第1四半期連結決算を発表、売上高は1681億5700万円（前年同期比9.1%増）、営業利益は305億3500万円（同88.4%増）と大幅な増益だったことが材料視された。SW販売した「ドンキー



任天堂の日足チャート

フリーズ」が人気を博し、併売ソフトや追加コンテンツなども伸びている。

公開価格の2.3倍

システムサポートの初値2日、システムサポート（4396）が東証マザーズ市場へ新規上場、公開価格1750円の2.3倍となる4000円で初値をつけた。ITシステム開発、データベースやクラウドの移行・基盤構築、ER、ERPの導入・運用保守、データのセンター運営、

配分変更の影響

先週の東京株式市場は3週ぶりに反落しました。日銀の金融政策決定会合に振り回された感があります。今週から日銀のETF買いは、TOPIX型87%、225型11%、JPX400型1%の配分となります。注目点は市場の状況に応じて購入額を上下に変動させる可能性があるということです。

大きく株価が下落したときは増額される可能性もあり、ショート筋が売り叩くことは難しくなるのではないかと思います。このような政策はマーケットにとっては決して好ましいことではありませんが、運用サイドはこのことを頭の隅に入れておく必要があります。

日経平均は概ね2万2700円～2万2300円の中での膠着相場となっており、75日線を下値支持線としてもちあっています。ここでどちらに放れるのかを注視しながら抜けた方につくというのがセオリーです。

日々勇太郎



中国関連は貿易懸念再燃

2日、ファナック（6954）、コマツ（6301）、資生堂（4911）など中国関連株が安値圏に押し下げられた。トランプ米政権が200億ドルの中国製品を対象とした第3弾の対中制裁を巡り、追加する関税率を当初の10%から25%に引き上げるよう米通商代表部に検討を指示したと伝

公開価格20%上回る

わったことで、改めて貿易摩擦激化の影響を警戒した売りが優勢になった。8月中に追加措置を發動する見通しという。2日、イボキン（5699）がジャスダック市場に新規上場、公開価格1930円を19.7%上回る2310円で初値が生まれた。解体事業、環境事業と金属事業による総合リサイクル事業を展開する。

転ばぬ先のテクニカル

# 今年二度目の激震

## 三本の移動平均線が急接近

### 国際テクニカルアナリスト 武蔵 宗久 氏

今年7月26日、米国ナスダック市場のフェイブック株が急落し、1日で時価総額が13兆円減少した。翌27日にはNY市場のツイッター株が21%急落し、世界中の投資家に衝撃が走った。今年2月5日にNYダウが1175ドル安の過去最大の下落幅となり、その後の株式市場は世界的に調整局面で推移している。

米国株式市場を牽引してきたハイテク企業が急落したことで、今後の株式市場にどのような影響を及ぼすのか注目している。しかし昨年来、米国株式市場をリードしてきたハイテク銘柄の株価動向が今後の株式市場を展望する上で重要な要素になる。

昨年10月以降、ナスダック市場のアルファベット株とアマゾン株が明確に1000ドルを突破した後、今年7月にはアマゾン株が1863ドルまで急伸し、また、アルファベット株は1285ドルまで上昇した。そしてナスダック市場は7月25日に史上最高値を更新している。その直後の今回のショック安ではあるが、主力の2銘柄の今後の株価のトレンドが重要になる。

また、テクニカル分析上、注目すべきは、NYダウの三本の移動平均線が急接近している状況である。7月24日には25日線と75日線と200日線の上下幅は161ドルまで接近した。今年2月2日の上下幅は3023ドルであった。

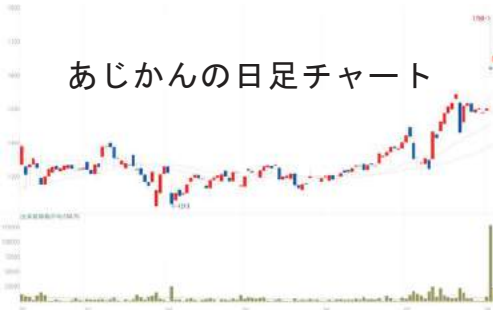
## 相場展望

過去の経験則から、移動平均線が急接近したあと、株価が上下に大きく振れる習性がある。

## あじかん続騰し高値

### 第1四半期は43%営業増益

2日、あじかん(290)が続7)が急伸、年初新高値を更新した。19年3月期の第1四半期連結決算を発表、売上高105億9600万円(前年同期比6・0%増)、営業利益2億5700万円(同43・0%増)、純利益2億6800万円(同2・



あじかんの日足チャート

1倍)と大幅な増益だった。つくば工場の新規開拓・深耕拡大への取り組みに加え、北海道、沖縄、甲信越、北陸、千葉など新規エリアにおける

3日、メガチップ(6875)が大幅反落で年初来安値を更新した。19年3月期の連結営業利益を23億円から5億円(前期比81・5%減)、最終損益を10億円の赤字から8億円の赤字(前期19億4800万円の赤字)へ下方修正。MEMSタイミングデバイス需要減少と在庫評価の見直しで売上原価が増加する。

## スズキ急反発し最高値

1Q34%経常増益で買い気再燃

週末3日、スズキ(7269)が急反発、6日ぶりに最高値を更新した。19年3月期第1四半期の連結決算は、売上高9874億6900万円(前期比13・6%増)、経常利益1330億9600万円(同33・8%増)と大幅増収増益で着したことを受け買い気が再燃した。通期は営業利益3500億円(前期比8・6%減)と期初予想を据え置いたが、1Qの進捗率は38・0%に達し、

### メガチップ最終赤字

今週の動意銘柄

## ～決算情報～

### ハリマ化成グループ

## 1Qは2ケタ超の増収増益 電子材料など全部門伸び収益改善

ハリマ化成グループ（4410）の19年3月期第1四半期の連結決算は、売上高194億3200万円（前年同期比12.6%増）、営業利益10億8000万円（同14.2%増）、最終利益16億9000万円（同2.7倍）と2ケタ超の増収増益となった。樹脂化成品は建築・外装用塗料向け、製紙用薬品は中国と国内の引き合いが堅調、電子材料もソルダペーストや自動車熱交換器用のろう付け材料の販売が増えた。出版印刷インキ用樹脂のローターは欧州で大きく売り上げを伸ばす一方、価格競争激化により収益が悪化したが、他部門の改善でカバーした。

通期は売上高800億円（前期比9.1%増）、営業利益45億円（同12.2%増）、最終利益29億5000万円（同8.2%増）と期初予想を据え置いた。

### 江崎グリコ

## 微減収減益も原価率低下 品種構成変革などで収益性は向上

江崎グリコ（2206）の19年3月期第1四半期の連結決算は、売上高884億8400万円（前年同期比0.4%減）、営業利益59億9500万円（同8.7%増）、最終利益49億円3700万円（同5.7%減）と微減収減益で着地。菓子・食品、冷菓、乳業、食品原料いずれも前年同期を下回り、海外子会社増加に伴う人件費負担や経営基盤強化のためのインフラ整備費用が収益を圧迫した。

ただ、高収益のロングセラーブランドの強化など販売品種構成の変革と冷菓や海外事業のコスト対策などにより、売上原価率は0.3%低下、収益性は着実に向上しており、通期は期初計画の売上高3640億円（前期比3.0%増）、営業利益180億円（同11.7%減）、最終利益136億円（同10.6%減）を据え置いた。

### あじかん

## 1Qは43%営業増益達成 新規エリアや新業態へ拡販進む

あじかん（2907）の19年3月期の第1四半期（4～6月）連結決算は、売上高105億9600万円（前年同期比6.0%増）、営業利益2億5700万円（同43.0%増）、純利益2億6800万円（同2.1倍）と大幅な増益だった。

つくば工場の生産品を軸とした新規開拓・深耕拡大への取り組みに加え、北海道、沖縄、甲信越、北陸、千葉など新規エリアにおける拡販体制をさらに強化、外食業態やベーカリー市場など新たな業態に向けての販売促進活動にも注力し、主要原材料価格が安定的に推移したことも利益を押し上げた。

通期業績は売上高455億円（前期比5.9%増）、営業利益12億5000万円（同4.1%増）、純利益8億円（同6.7%増）と従来見通しを据え置いた。

### アズワン

## 第1四半期19%営業増益 eコマース型集中購買など増える

アズワン（7476）の19年3月期第1四半期の連結決算は、売上高153億8200万円（前年同期比10.9%増）、営業利益18億3000万円（同18.8%増）、最終利益12億4700万円（同16.8%増）と2ケタ超の増収増益で着地した。eコマース型集中購買やインターネット通販業者向け売り上げが増加、品ぞろえ充実によりWEB単独掲載商品の引き合いや販売店経由でWEBから直接購入できるAXELショップの利用なども売り上げに上乗せされた。販管費や人件費負担は増えたが、増収効果で吸収して収益が拡大した。

通期は売上高658億5000万円（前期比8.0%増）、営業利益75億2000万円（同14.0%増）、最終利益52億2000万円（同11.4%増）と期初予想を据え置いた。

## ～決算情報～

**TOA**

### 1Q増収で営業黒字に浮上 国内外で販売伸び円安も収益押上げ

TOA(6809)の19年3月期第1四半期の連結決算は、売上高87億8800万円(前年同期比8.0%増)、営業損益4000万円の黒字(前年同期2億4600万円の赤字)、最終損益3800万円の赤字(同2億9000万円の赤字)と増収で営業黒字に浮上した。国内は商業施設や交通インフラ向けに加え、新商品納入が進み映像機器販売が増加、海外はアメリカで鉄道車両向けが伸び悩み、中国は営業費用負担で減益になったが、インドネシアやマレーシアが堅調で、ベトナムでは教育関係など官公庁向けが拡大、欧州も伸び、円安も売り上げ、利益を押し上げた。

通期は売上高470億円(前期比6.4%増)、営業利益34億円(同3.2%減)、最終利益21億5000万円(同0.5%増)と従来予想を据え置いた。

**クボタ**

### 第2四半期営業増益確保 原材料価格上昇は収益圧迫要因

クボタ(6326)は2日の取引終了後に18年12月期の連結業績予想の修正を発表、売上高は1兆8200億円(前期比3.9%増)で据え置いたが、営業利益を2130億円から2040億円(同2.0%増)へ、純利益を1510億円から1450億円(同8.1%増)へ下方修正した。原材料価格が上昇していることなどが影響している。

あわせて発表した第2四半期累計(1～6月)の連結決算は売上高9061億9600万円(前年同期比7.0%増)、営業利益1011億4000万円(同1.0%増)、純利益719億2700万円(同1.3%増)だった。国内は農業関連商品や補修部品などが増加、海外は中国での農業機械の減少を建設機械などの増加で補い切れていない状況となっている。

**村田製作所**

### 26%増収で15%営業増益 積層セラミックコンデンサ大幅増

村田製作所(6981)の19年3月期第1四半期の連結決算は、売上高3455億800万円(前年同期比25.7%増)、営業利益481億5100万円(同15.2%増)、最終利益389億8400万円(同17.6%増)と大幅増収増益で着地した。コンポーネント部品を中心に需要が好調で、主力の積層セラミックコンデンサが大幅に増加、9月に取得が完了したリチウムイオン二次電池の売り上げ計上で大幅増収となり、円高や製品価格低下、増産投資負担増など減益要因を原価低減や新製品投入効果で吸収して2ケタ超の増益を確保した。

通期は売上高1兆5750億円(前期比14.8%増)、営業利益2400億円(同47.0%増)、最終利益1800億円(同23.2%増)と従来予想を据え置いた。

**英和**

### 第1四半期純利益9.5倍 高稼働背景に更新需要取り込む

英和(9857)の19年3月期の第1四半期(4～6月)連結決算は売上高で76億600万円(前年同期比16.8%増)、営業損益で1億7800万円の黒字(前年同期200万円の赤字)、純利益は1億2000万円(前年同期比9.5倍)だった。高付加価値営業強化による収益力の向上を最重要課題として、全国の営業拠点網を活用しながら積極的に営業を推進。これにより、前期から続く生産設備の高稼働状況を背景に、各社の更新需要は堅調で、化学品製造業、鉄鋼製品製造業、舶用機器製造業、電力会社を中心に販売が好調に推移している。

通期は売上高350億円(前期比1.8%増)、営業利益11億円(同3.4%増)、純利益6億9500万円(同5.2%減)と従来見通しを据え置いた。

# チャートから読む 騰落銘柄

## CSP (9740)



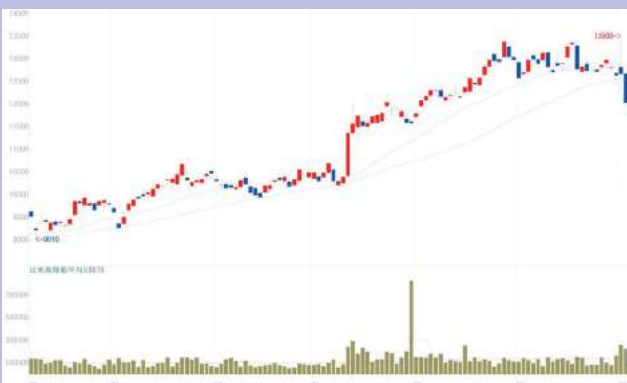
25日線と50日線を割り込んだ後に下げ止まる動き。19年2月期の第1四半期は連結営業利益で前年同期比60.8%増益を達成し、通期予想も上振れ期待。6月25日の5390円高値奪回目標。

## メイコー (6787)



6月15日に年初来高値2496円を付けてからスピード調整が完了、5日移動平均を支持ラインに下値を切り上げる。日足が再び陽転、一日均衡表雲上限を上抜き、高値奪回から噴き値局面へ。

## 大正製薬HD (4581)



1日に1万3500円の高値を付けた後値を崩す。1Q17.5%営業増益もリポビタミンDの国内販売減少や薬価引き下げの影響を懸念。1万2000円割れなら5月上旬安値水準の1万円トビ台までの下落も。

## ベステラ (1433)



7月5日に最安値1227円を付けた後、急反発に転じるも26週線に跳ね返されるかたちで反落に転じる。約3週間にわたる調整で月足に続いて日足が再び陰転、底割れ回避へ正念場続く。

※チャートは日足



## 潮流

## 内需喚起で所得増図れ

## 大規模財政出動と減税の決断を！

marKet / bAnk

市場の関心事だった日銀金融政策決定会合が終わった。黒田総裁は、長期金利が経済・物価情勢等に応じて上下にある程度変動することを容認したことに関し、変動幅について、現在のゼロ%を中心とした上下0.1%の変動から上下0.2%の変動をメドとする方針を示した。ただし、金利が急上昇する時は「迅速に国債を買い入れる」とした。また、金融緩和継続のための枠組み強化に伴い、上場投資信託(ETF)の買入対象を修正した。

8月6日から日経平均、TOPIX、JPX日経400に連動する3指数のETFへの年間買入額を3兆円から1.5兆円に減らし、TOPIX型を2.7兆円から4.2兆円に増やす。今回導入した「強力な金融緩和継続のための枠組み強化」によって「緩和を粘り強く続けることで実現する」との見通しを繰り返した。異次元の量的緩和金融政策は今後も続く。当然の対応だ。金融緩和の歪みとして、バブルの再発ということを目にするのが全く理解不能だ。今の株価や物価上昇率から見てバブルの心配どころか金融緩和の手綱を緩めるとデフレに逆戻りしても不思議ではない状況だ。

今、最も必要な政策は全国民の所得を増やす

ウェルビーの日足チャート



市場の関心事だった日銀金融政策決定会合が終わった。

黒田総裁は、長期金利が経

ことである。そのためには内需を活発にして景気を底上げしなければならない。それができない限りインフレ2%目標は達成できないのだ。トランプ大統領は大規模な減税とインフラ投資を行った。米国の景気が悪

いから実行したのではない。景気が良いにも関わらず実行したのだ。だから、米国株式市場は史上最高値水準を維持しているのである。

米国の消費者物価上昇率は前年比3%程度と日銀の目標よりも1%も高い。トランプ大統領は不動産王で名を馳せた。当然、不動産価格に関心が高い。不動産市場を拡大させるには株式市場の上昇が欠かせない。米国の株価を高くすることでアメリカファーストを維持できるのである。そのことをトランプ大統領は一番理解している。日本政府はアメリカを見習って大胆な景気対策を行うべきだ。安倍総理は大規模な財政出動と減税の決断をすべきだ。総理の意気込みが国民や経営者のマインドを高めることにつながり、内需が喚起され、景気が上向き国民の所得が増加する。

潮流銘柄はウェルビー(6556)、アクリート(4395)、バリューコマース(2491)。



岡山憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

インフレ目標達成に向け

# 2万3千円目標は不変

## 高野恭壽の株式情報 これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

7月23日の2万2341円87銭で下げ止まっていた日経平均は8月に入って2万2700円台の後半まで戻していましたが、2日には再び波乱となりました。

トランプ大統領が中国製品を対象とした第3弾の対中制裁を巡り、追加する関税率を当初の10%から25%に引き上げるよう米通商代表部(USTR)に検討を指示したと伝わったことで、再び米中貿易摩擦激化の影響を警戒した売りが優勢になり、2日の大引け後は先物の夜間取引で2万2400円割れまで

## 好決算銘柄が指数上昇支援

売り込まれる状況にはなっていない。前回のこの欄でも指摘したようにトランプ大統領による過激な言動から一時的に振られる状況になっても、下げがほぼ限界にきており、道のりは平坦にはありませんが、日経平均は2万3000円を目指す動きに変化はないと見ています。個別では4〜6月決算の発表が本格化し、1日には好決算を示したソニー(6758)が大きく上げて、それに刺激されて日東電工(6988)なども上昇しています。一方、好決算でも反落に転じる銘柄もあり、選別する必要がありますが、好調な業績が確認された銘柄の押し目は株価の位置を見て拾って行けると見ています。何度か紹介しています大紀アルミニウム工業(5702)は7月31日に第1四半期(4〜6月)連結決算を発表、売上高は508億1600万円(前年同期比17.7%増)、営業利益は18億7000万円(同14.5%増)と2ケタ増収増益を発表しました。株価は7月5日の633円を底に上昇していたことから決算発表直

売られていますが、ただ、ニューヨーク市場もナスダック指数が下げ止まる動きにあるなど一段と

後には利益確定売りに押される場面もありましたが、全般軟調な2日もプラスで引けています。どう考えても安すぎることは事実であり、上値をとっていくとみています。7月23日に18年6月期通期予想を上方修正したテックファーム(3625)はまだ本物の動きになっただけで今後の動きに期待しています。今回の狙いは三浦工業(6005)、三井金属(5706)、いすゞ自動車(7202)です。



大紀アルミの日足チャート

高野恭壽公式ホームページ  
高野恭壽の株式市場情報  
れどや!!  
http://www.kabun-takano.com/  
毎日情報を配信中!



★  
 投稿でマークシートが急変するなんてことは大統領としての意識が低すぎると思うかどうか？



人は愛犬の行動を毎日公開したり、出張が多い人は、印象に残った地元飲食店を紹介したりして、利用の仕方は様々。普段は会うことのない方をSNSを通じて元気に生活していることを感じとれるのはいい事だと思っている。

その反面、一度公開してしまおうと不特定多数の人にその内容を読まれてしまうリスクも発生する。芸能人なら多くの方にそれを読んで貰うことで自己PRになるが、その内容が批判を浴びてしまうと、犯罪者のごとく批判を浴びるリスクも発生するだけに安易にSNSを利用することに疑問を感じる。SNSの利用で世界的に目立つのがトランプ大統領で、ドル高批判投稿で一気に円高になつたのは記憶に新しい。

## 星野三太郎の 株街往来

～SNS利用のリスク～

最近  
 はフェイスブックやツイッターなどのSNSを積極的に利用する有名人が増えて、その内容が炎上するトラブルが増えた。筆者もフェイスブックとツイッター、インスタグラムをそれぞれ開設しているが、1年に数回程度をフェイスブックに公開する程度でほとんど利用していない。筆者の知



## New product

山田養蜂場

# 夏にピッタリ、健康維持

## 「パクチー蜂蜜」直営店と通信で販売開始

では人々の生活に欠かせない香草で、日本でもエスニック料理に使われる印象が強い。しかし、実際にはパクチー



パクチー蜂蜜

まれるなど、女性を中心にすっかり人気定着している。タイをはじめとした東南アジア

山田養蜂場（岡山県苫田郡鏡野町）は7月30日から「パクチー蜂蜜」を山田養蜂場直営店と通信販売（<http://www.3838.com>）を通じて販売を開始した。

独特の香りが特徴の食材パクチーは、近年では「パクチーニスト」や「パクチー女子」という言葉が生

の原産は地中海沿岸と言われており、古くからヨーロッパをはじめとした世界中で栽培されている。古代ローマの「博物誌」にパクチーの記載があるほか、紀元前の医学書にも記録が残っており、古くから料理や薬草として用いられ、人々の健康に役立てられている。

ヨーロッパでは、パクチーの花から採れるはちみつも人々から愛されており、ヨーグルトやチーズなど乳製品との相性が良いとされているが、純度の高い良質なパクチー蜂蜜は、数年に一度しか手に入らないという大変希少。また、パクチー蜂蜜は、はちみつの中でも活性酸素を除去するフラボノイドが豊富に含まれていることが報告されており、夏の健康維持にも役立つという。

今回、新発売となるパクチー蜂蜜は、深い香りと味わいながらも、すっきりとした後味が特徴で産地は、養蜂大国であるルーマニア。価格は、100g／700円、200g／1200円（税抜）。

敬院先物ディーラー

ハチロクの裏話

陰線多い8月相場

突っ込み買いの噴き値売り

注目された日銀金融政策決定会合は結果的には大きな波乱に陥らなかった。内容は現在6兆円買入れているETFの配分をTOPIX型重視にしていくことと長期金利の誘導を今まで0から0.1%までだったのを0.2%までとするものであった。また、フワードガイドダンスを取り入れることにより、噂で相場がかく乱されることは無くなりそうである。やはり、来年消費税増税を控えず、大きな政策の変更はやりづらいのであろう。

相場は日銀の発表を受けて緩和基調に大きな変化がないことを受けて、買戻しが入り火曜日には2万2678円まで上昇、チャート的には短期三角持ち合いを抜けてきたので上昇に弾みが付いて水曜日には2万2775円まで上昇した。しかし、木曜日にはトランプ大統領が中国からの輸入品

の雲のねじれが発表された。2000億ドル相当に對し当初10%としていた関税を25%にすると公表したため、上海指数が大幅下落し、それに伴ってドル相場も大幅下落した。アノマリー的にみて8月の相場は「陰線が多い」。お盆休みや夏季休暇をとる投資家が多く売買代金は減る傾向にある。その中でポジションを落したり、ヘッジをかけてから休暇に入る投資家が多いのが要因なのかもしれない。2015年8月のチャートはシヨックはまだ記憶にあまりない。人民元切り下げが暴落、日経平均も2週間連続で2万7600円から1万7700円まで約2週間下落した。とにか

生ずる。雲のねじれは相場の変化日として注視されているが、雲のねじれ(2万2410円)で反発するのか抜けて下値を試すのか注目である。ボリンジャーバンドのバンド自体は縮小の型である。△2σは2万3040円、▽1σは2万2190円である。下がっても下の窓(2万2316円)を埋める展開とはなっておらず底堅い展開である。今週もトレンドの出にくい週と思われるが「突っ込み買いの噴き値売り」で対応したい。レンジは2万2000円から2万3000円を予想する。(ハチロク)

週末の最大関心事はトヨタの1Q決算だった。19%営業増益と予想通り上々の内容で、通期微減益見通しは据え置いたが、為替前提レートは1ドル106円と現行水準より5円以上円高に設定しており、上振れはほぼ間違いのない。それでも株価は小動きで、発表直後に128円高ときょうの高値を付けた後、じり貧で小幅ながらマイナスに。一方、アジア主体のスズキは好決算を受け急速に切り返し、最高値を更新している。当面は米中だけでなく、日米貿易問題も上値を圧迫するのかもしれない。

今週のスケジュール

- ・ 3日 米7月雇用統計、米6月貿易収支 (21:30)  
米7月ISM非製造業景況指数 (23:00)
- ・ 7日 6月家計調査(8:30)  
6月毎月勤労統計調査(9:00)/6月景気動向指数(14:00)
- ・ 8日 7月30・31日開催の日銀金融政策決定会合の「主な意見」  
中国7月貿易収支
- ・ 9日 7月マネーストック、6月機械受注(8:50)  
7月都心オフィス空室率(11:00)  
中国7月消費者物価、中国7月生産者物価(10:30)  
米7月生産者物価(10:30)
- ・ 10日 4-6月期GDP(8:50)  
7月国内企業物価指数(8:50)  
6月第三次産業活動指数(13:30)  
オプションSQ  
米7月消費者物価(21:30)

編集後記

週末の最大関心事はトヨタの1Q決算だった。19%営業増益と予想通り上々の内容で、通期微減益見通しは据え置いたが、為替前提レートは1ドル106円と現行水準より5円以上円高に設定しており、上振れはほぼ間違いのない。それでも株価は小動きで、発表直後に128円高ときょうの高値を付けた後、じり貧で小幅ながらマイナスに。一方、アジア主体のスズキは好決算を受け急速に切り返し、最高値を更新している。当面は米中だけでなく、日米貿易問題も上値を圧迫するのかもしれない。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被りたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。